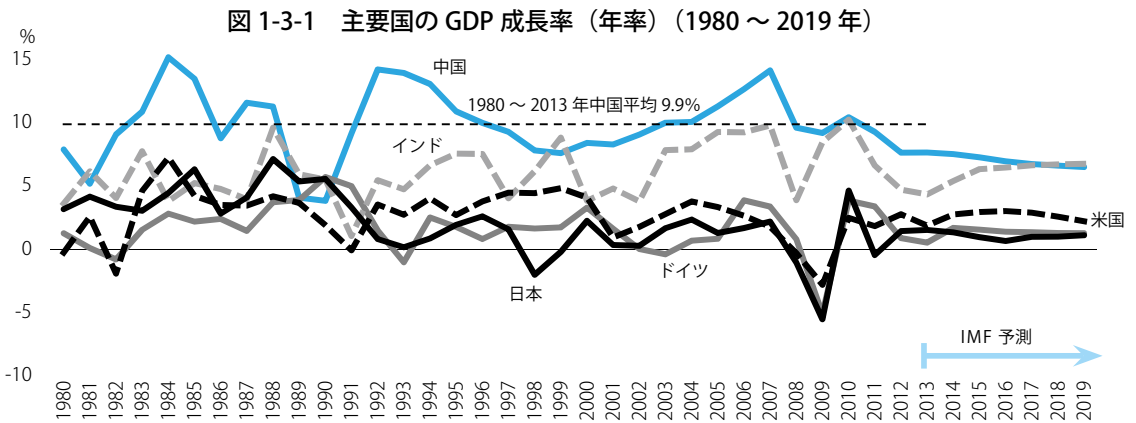


3 経済成長力を世界各国と比較してみると

1978年に改革開放に転じた中国経済は30年余高度成長を続けている。1980～2013年の年平均成長率は9.9%であり、1980年を1とすれば2013年は22倍となった(41ページの図2-3-2参照)。巨大な人口を擁する国家の総生産額が30年余の間に20倍以上になったということは、政治革命以上に偉大な経済革命であると言って過言でない。2010年代になって7～8%成長にスローダウンしているが、なお成長余力があり、現政権は引き続き2020年まで年率7%の成長を続ける目論見である。31省・市・自治区は世界経済発展の機関車であることが、一番下の棒グラフからイメージできるであろう。このうち、トップグループ、中位グループ、下位グループを構成する9省の最近10余年(2000～2013年)のGDP(域内総生産額)とその成長年率をグラフにしたのが右ページの九つのグラフである。10%ラインを基準に見ると、ここ数年は10%成長を期待できず7%成長が目安となっていることが読めよう。むしろ7%でも世界で抜群の高度成長である。

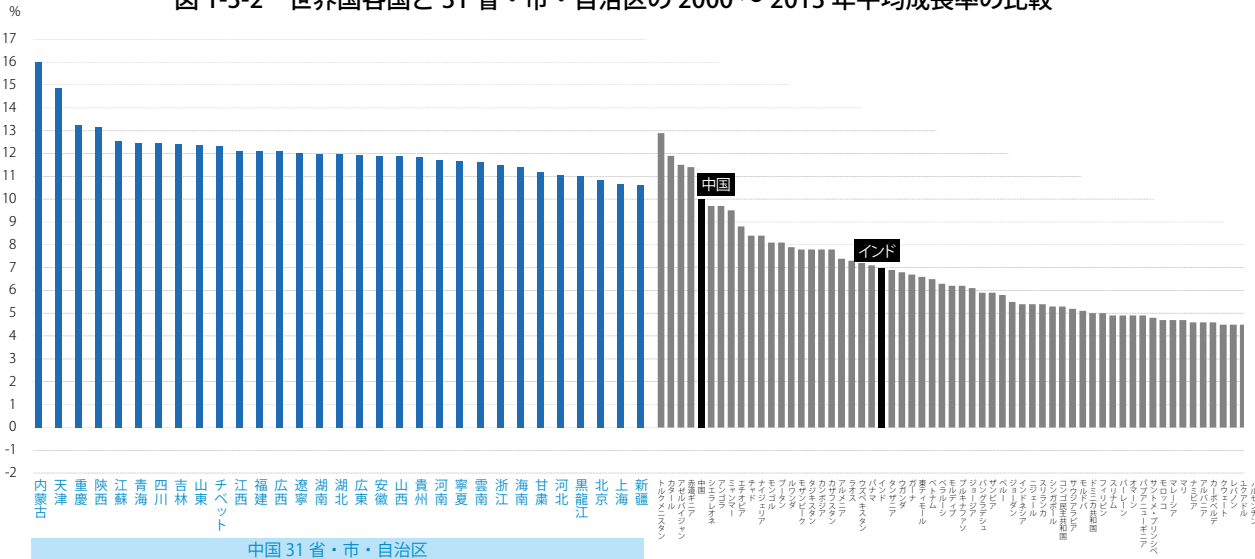
(データ出所) IMF データベース、『中国統計年鑑』2013年版、『中国統計摘要』2014年版、各省市自治区の統計年鑑2013年版

中国の超高度成長は続く——1980～2013年の23年間は年率9.9%



31省・市・自治区は世界経済発展の機関車である

図 1-3-2 世界国各国と31省・市・自治区の2000～2013年平均成長率の比較



ここ数年は 10%成長を期待できず、7%成長が目安となっている

図 1-3-3 主要省・市・自治区の GDP と成長率（2000～2013 年）

